

会 議 名	第2回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会（有識者）
開 催 日 時	令和6年6月28日（金）18時～19時30分
開 催 場 所	港区役所 9階 914会議室
委 員	（出席者） 文教大学人間科学部人間科学科准教授 青山 鉄兵 公益財団法人児童育成協会健全育成事業部部長 佐野 真一 港区青少年委員会会長 芝 耕太郎 公益社団法人東京青年会議所港区委員会副委員長 橋本 惇巨 認定NPO法人3keys代表理事 森山 誉恵 都立六本木高等学校教員 吉谷 健也 子ども家庭支援部長 中島 博子
事 務 局	子ども家庭支援部子ども若者支援課 特定非営利活動法人 こども哲学・おとな哲学 アーダコーダ
会 議 次 第	<開会> 1 第2回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会（高校生世代）の報告 2 （仮称）高校生世代の居場所ビジョンについて 3 具体的な取組の検討方法等について 4 事務局からの連絡事項 <閉会>
配 付 資 料	資料1 （仮称）高校生世代の居場所ビジョンの作成に向けた当事者意見の集約及び整理について 資料2 第2回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会（高校生世代）議事録 資料3 KJ法による高校生世代委員の意見及びグループ整理 資料4 （仮称）高校生世代の居場所ビジョンについて 資料5 （仮称）高校生世代の居場所ビジョンの主題設定について【当日配布】 資料6 今後の具体的な取組の検討方法等について 資料7 具体的な取組の検討における6つの視点（イメージ図） 参考資料 1 第1回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会議事録（公開用） 2 第1回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会議事録（非公開用） 3 次第（6月11日開催：高校生世代） 4 資料1（仮称）高校生の居場所ビジョンの検討方法について 5 都内在学の中高生の新たな第三の居場所（松下向日葵）
会議の結果及び主要な発言	
委員長 事務局	<開会> 1 第2回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会（高校生世代）の報告 次第1について、事務局から資料を説明する。 （資料説明）

委員長	第1回検討委員会で、副委員長を有識者から1名、高校生世代から1名の計2名ということにした。6月11日に開催された、高校生世代委員の検討委員会で、福田委員が選考された。 副委員長は、委員長が指名することが規定されているため、この場で、福田有佳委員を副委員長として指名する。 高校生世代委員のファシリテーターは、事務局説明に補足があればお願いしたい。
ファシリテーター	皆さんそれぞれ、どのような要素が居場所としてあるかを考え、当日持ち寄った。居場所だと感じる方向性は多様にあると感じた。ファシリテーションして、高校生世代がこのような形でカテゴリー分けしたものを、資料としてまとめられている。高校生世代が自分の意見を出したものになるので、どの要素も入るようなビジョンになれば良いと思う。
委員長	ここまででご意見はあるか。
委員E	資料2の3ページの高校生世代委員の発言にある、「男子のほうが、相談しづらいと感じる傾向がある。」というのは、「相談に行きにくい」という趣旨か。
事務局	これは男子の方が、誰かに相談するというアクションがしにくい。男子の方が人に弱みを見せるとか、頼ることがしづらい状況にあるという趣旨で発言されたのではないか。
委員E	高校生世代委員ご自身の目線で、そのように感じたのか。
事務局	発言のきっかけは不明だが、実態調査における中高生プラザへのヒアリング調査でも、女子から相談される機会が多いという話が出ていた。
委員長	スタバやドトールも含めて、映えるかどうか、他者の目が介在する。良くも悪くもそれがある。優越感として居心地の良さにつながる、逆もある。しんどさにつながることもある。
委員E	逆に優越感がないと、居場所としてもつらくなることもある。
委員長	映えるものを作れば良いという話でもないのかなと思う。本人たちにも聞いてみたい。
委員D	私たちの施設では、利用する際に、（他の利用者は）自傷癖のある子はいるか、などの問い合わせを受けることがある。
委員B	委員Dが運営される居場所の利用者は、男女比率はどれくらいか。
委員D	半々くらい。少し女子が多い。
委員F	高校生世代主体ということに意味がある。居場所は、中学生も一緒に良いという意見があると思っていたが、別が良いという意見がいくつかある。
委員A	高校生は義務教育も終わっているのだから、生活的にも全然違うと思う。彼らのプライドもあるので、中学生と高校生は分けて考える必要があるのでは。一緒に考えるのも難しさがある。
委員長	居場所は、斜めの関係が強みであり、異年齢の交流があることが強みだと言われている。しかし、同世代ということの安心感もすごく重要ということが、よくわかる。
委員長	以上で、次の次第に進む。
委員長	2 （仮称）高校生世代の居場所ビジョンについて
事務局	次第の2と3をまとめて、事務局から説明する。
委員長	（資料説明） 次回の会議で、ビジョンの枠組みを決めたい。ビジョンというのは統一目標、その下にいくつかの柱がある。柱ごとに具体的な取組リストが連なる。 共通テーマと柱を決めるためには、多様な視点があるというのが資料6。 事務局の案は、主観的なものや要件や機能を加味すると、安心感が重要な意見ということで、資料5の最後に「ありのままの自分で安心していられる居心地の良い環境」という提案がされている。

	資料6に挙げていただいたミッションを考えるヒントになると思う。
事務局	事務局案は、高校生世代の議論を踏まえて提案した。有識者の皆さんからご意見があれば、高校生世代にアドバイスして、またみんなで考えることも大事。補足などご意見をいただきたい。
委員D	資料5の主観的、機能的など3つに分類されている内容は、各委員が入れて欲しいという内容か。それとも、こういう発言があったのか。
事務局	高校生世代委員の検討委員会の時間が足りず、後日追加でテーマについて意見を照会した。高校生世代の委員それぞれが考える居場所ビジョンのテーマが中点の文書となっている。これを事務局が仕分けしたものが表である。
委員D	上にある文書が当事者の意見で、下の表は事務局がまとめたものということで理解した。説明資料のビジョンには、ミッションというのが3つあるが、全部を新しく作るという意味か。
事務局	このミッション全部を新たにやろうということではない。最上位のテーマを達成するために必要な取組の柱を3つ立てるということ。例えば、誰かと過ごせる居場所づくりであれば、すでに実施している中高生プラザの取組がある。既存のものだけではない。高校生世代の委員から新しい取組の提案を受けた場合、どのミッションに当てはまるのかという仕分け分類にもなる。
委員D	実態調査でまとめられた交流型、非交流型に代わる、枠をつくるということか。
事務局	実態調査で見えている課題として、区の方交流型の居場所への取組は弱いことは明らかなので、非交流型を検討することは決まっている。それをどこに落とし込むかということ、事務局案では、一人で過ごす居場所づくりに落とし込まれる。
委員D	柱は、3つじゃなくても良いのか。重複もあり得る。一人でいることが安心に繋がれば、1と2の両方に当てはまることもある。
事務局	最終的に、全てのミッションを包含して1つのテーマになる、施策体系として主目的は分けたいが、実態は関連するので重複されと考えている。
委員長	それぞれの事業を検討する上では、ミッションは全部関連していくことなので、重複がある前提としたい。ひとまずビジョンは、今やっていることも、これからやりたいことも含む、包括ビジョンということ。これから検討する取組を分かりやすく整理される柱ができると良い。
委員E	高校生世代の居場所づくりだが、年齢的にその先のことは考えなくて良いのか。不登校で学校に行けない二十歳もいる。そういう年齢を絞らずに考えていきたい。そこで終わるわけではないし、引き続き対象児童を後押しすることも必要、この先を想定したビジョンとして欲しい。
	それから、心理的な居場所につながるかもしれないが、迷惑をかけるとか、邪魔をする、嫌がらせをする、そういう要素もその人の通過点になる。格好悪いとかみっともないとか、そういう言葉も入れても良いのでは。
委員長	大人が決めた望ましさが見えない方が良い。1つ目は枠組みに関することだと思うが、この対象範囲を固定する部分について、事務局の考えはどうか。
事務局	高校生世代という言葉を使用しているが、意図しているのは思春期後期の児童である。ターゲットとして、絶対に高校生だけという条件はない。
委員長	若者の居場所ビジョンとか、もう少し広い枠組みの施策として良いのでは。高校生世代として固定することについてはいかがか。
委員F	高校生世代以降の先を見据えた姿勢は示さないといけないが、若者というと、幅が広すぎる。
委員長	区は、若者の年齢をいくつまでと考えているか。
委員F	一般的には、29歳までだが、社会的な自立状況に応じて39歳までとなっている。
委員A	若者というと高校生は行きづらいのではないか。
委員長	ユース世代という言い方もあるが、それも大人が使う言葉なので、高校生世代の意見を聞いてみてはどうか。

委員D	年齢をどこで切るかという議論もあるが、私たちが運営に関わる施設では、むしろ年齢しか要件がない。 どこまでを対象とするか、家庭にいないといけない苦しさ、そうでない人の苦しさは種類が違う。未成年が来づらくなるといけないので、年齢の要件を設けている。対象の要件については、難しさを感じている。 子供若者白書で居場所の数を調査している。その調査で、居場所は①自分の部屋、②家、③インターネット、④学校、⑤職場、⑥地域と定義されている。まったく居場所の無い児童を想定するのか。家やインターネットくらいしか居場所が無い児童をターゲットにするか、既にいくつか居場所がある児童を対象にするかでも異なるだろう。 非交流型施設を作る意義として、居場所が全くない、もしくはインターネットとか部屋にしかない児童向けの居場所だと、その居場所を失うと、居場所が再びなくなるので、守りの居場所にならざるを得ない部分がある。交流によって生まれるリスクからどのように守るのかという視点も重要である。 ターゲットは、どれくらいの居場所のある人を想定するか。
委員C	高校生世代の意見を中心に捉えることに意味があるが、ここでの意見をフィードバックして高校生世代が、想像できないものをつくることも大切では。
委員長	名称も、高校生世代のビジョンで良いかどうかを高校生に聞いてみてはどうか。大人が勝手に決めなくてもいいのではないかな。我々の意見を自由に言っていただいて、それをまた高校生にぶつければいいと思う。 そういう意味では、資料5の3ページ、例えば、施策のテーマでは体言止めなので、動詞にした方が良い。「誰もが一つ以上は居場所がある街を目指す」となれば、もっと交流したい人もそうではない人も含まれる共通テーマになるのではないかな。
委員E	「ありのままの自分で安心してられる」が良いか、「ありのままの自分が安心してられる」が良いか、高校生世代に聞いてみたい。
委員D	エモいのが好きな子もいれば、それが嫌いな子もいるので、そういうことも含めて聞いてみたい。
委員長	大学生と話しても、素の自分や個性みたいなものへのプレッシャーもあり、ありのままの、という言葉は好き嫌いがあるのかもしれない。
委員A	自分が嫌いという子もいる。
委員長	「どんな自分もどんな時も安心できる環境を全ての高校生がもてる港区を目指す」ということを共通テーマにしてもいい。
委員D	思春期の特徴として、自分の内なる複合的なキャラクターや、自然な発達的な感情。オンラインで寄せられる匿名の若者の声には「自分がわからない」ことに真剣に悩んでいるケースが多い。しかし、本来はとても自然なことなので、色々な自分が居ても大丈夫ということを伝えられたら良い。
委員長	このようなイメージでワーディングは事務局に任せつつ、高校生世代ともう1回みんなで確認する時間を持ちたい。共通の目標はそんなにずれていない。
	3 具体的な取組の検討方法等について
委員長	どのようなミッションを立てていくかが重要。柱の決め方について意見がほしい。
委員B	ミッションは限定しないといけないうか。
委員C	限定していかないと検討の体系として最終的に厳しくなるのではないかな。
委員長	時間軸や相手で分けるのも1つ。
委員C	対極で考えるのはどうか。
委員長	ビジョンは、今取り組んでいること、まだやれていないことが含まれているので、ある程度は総体的に押さえておく必要がある。

事務局	ビジョンの設定でマストの部分として、実態調査の結果として、非交流型の居場所づくりと、中高生プラザの利活用の促進は入りたい。具体的な取組に落とし込めるようなミッションの設定をお願いしたい。
委員D	非交流と交流という区分けは曖昧なものであると感じていた。事務局案の「誰かと」「一人で」というのは分かりやすくなった。
委員C	「一人でも」いられるという要素はどうか。
委員D	「一人でも」という表現は、個人的には危ないと感じる。「一人で」と「一人でも」には大きな差があり、「一人でも」だと、みんなで過ごすことがどうしても自然になって交流型になりやすい。例えば、友達を連れてくると、その子たちの居場所になってしまい、他の子たちが来なくなる。
	交流の意欲が出てきた時には他の場所を利用してもらうなど、大事な部分を守らないと、すぐに交流型になってしまう。
委員B	委員Dの関わる非交流型の施設でも、友達を連れてくる子がいるということか。なぜ連れてくるのか。
委員D	環境などが自分に似た子や兄弟を連れてくることもある。
委員B	その場合は、友達を連れて来られたから、交流型の居場所の利用を促すのか。
委員D	促すことはせず、二人で来ても個々に過ごしてもらう
委員長	一人でいることが保障されるというイメージを感じた。
委員D	単に個室を作ることではなく、一人で居られると知っていても来られない児童もいる。
委員長	誰かの居場所であることは、誰かの居場所をつぶしてしまうということがあり得るということ。
委員E	頼りになる人がいるとか、大人に相談できるとか、そういうワードはいらないのか。
委員長	支援の香りがすると行きにくいという意見がある。
委員E	食べるものが無いとかお風呂が無いとか、そうなっても行ける場所を目指すのであれば、「必要なものが見つかる場所」というミッションはどうか。
委員F	「好きなことができる居場所」は必要。好きなことからしたいことが見つかる。ミッションはあり過ぎると拡がり過ぎる。絞るけど、好きなことをするためには何かを支えていく。相談機能が必要と思うが、そういう看板に見えるようにビジョンにするのが良いのか。ミッションとして表現する際は陰にひそめていくのが良いかもしれない。
委員長	大人が相談機能を付けるのではなくて、主語は常に高校生世代としたい。必要なサポートが得られるということを伝えたい。
委員D	「好きなこと」と「必要なこと」は似て居そうで異なると感じる。私たちが関わる施設では、好きなことをしに来ているわけではない。食事、ロッカー、Wi-Fi、シャワー、洗濯等、好きというよりは、必要なものを求めに来ている。「支援」だと遠ざかるが、必要なものが「揃う」だと来るのかもしれない。
委員C	非交流型のテーマに近いと思う。
委員長	選択肢として、1つのモデルにはなと思う。
委員D	港区としてどういうものが必要かという整理もしなくてはいけない。
委員長	居場所の説明をする時に、2つの軸で話す。
	誰かと一緒か一人か。何かしてもいいし、何もなくていい。それぞれ違いがあるが、その両方が「守られる」というのがいい。交わることがみえると「交流」だが、「のんびり」の両方あるのも良い。あとは、委員Eが提案された高校生世代以降に繋がるビジョンが見えても良い。
委員D	高校卒業以降になると、居場所というよりも「住居」とか「就労」とかが柱になるのでは。居場所という軸はブレない方がよいか。
委員長	居場所ということで高校生世代も議論をしている。今は変えられない。高校生世代の先を強調すると、居場所感が無くなる。就労の話とは異なる。

委員B	例えば、就労も結果的に必要なものの一つとして理解しつつ、求人情報などを「必要なものが揃う場所」の中に落とし込むとか。
委員長	必要なものの要素として落とし込むのはあり得る。
委員B	中学校でも就労体験がある。一つの情報として、ひねれば出てくる蛇口を用意しておく。
委員C	これが欲しいという叶う施設。頼れる場所みたいなところがあるとよい。
委員長	意見表明みたいな、声がどう反映されるか重要。来る子によって必要なものが異なる。それを居場所が揃えてあげるといのは今までになかった発想。
委員B	そういう施設は、口コミで広がる。それが強い武器になる。
委員D	欲しいという目安箱は、好きなことに寄る傾向もある。例えば、子どもは好きじゃないけど必要なものもある。「好き」と「必要」の違いは分けておきたい。
	意見表明は、好きなことに近いのかもしれない。子どもの要望にもどこまで応えるのか、となるので少し慎重に考えたい。なんでも叶えるということは本当に必要な支援なのか。必要なものになればなるほど難しさもある。
委員長	ビジョンは、4つになるのではないかと。①一人でいられること、②いろんなことができたり、誰かといることが守られる場所、③必要なことが揃っていたり、必要なことができる場所、④好きなことや自分の要望が言えたり、好きなことが見つかる場所。例えば、意見聞いてもらえることとか、やりたいことが見つかる、必要なサポートを受けられる。
委員C	マズローの欲求段階の話をしているように感じる。今回は欲求段階を混ぜないというのをコンセプトにというよりは、ステップの行き来ではないかと。
委員長	ビジョンの両方が施策として立てなきゃいけない。利用していて、中高生プラザに行きたい子は行く、ここにとどまりたいっていう子はそこに留まることが出来る場所がある。
委員E	高校生世代は居場所を行ったり来たりする。
委員C	港区の中に何か所か居場所があり、そのときの感情や状況で、行ったり来たりする。どこに行ってもはみ出さない。
委員B	利用環境も大事。全施設共通のパスみたいなものがあってもいい。
委員長	高校生世代の居場所ビジョンとしては、この枠組みとして進めたときに、資料5の統一テーマとしては、何かを作るとか動詞にすることが必要ではないか。
	「ありのままの」より、みんなにそういう場所があるということ、いろんな自分が守られるという要素を足して欲しいというのが、今日の意見なので、資料4のビジョンに落とし込むと、
	① いろんな人と一緒に居られ、何かできる。
	② 一人で居る、何もしなくて良いということがちゃんと守られる。
	③ 必要なものがサポートされ、必要なものが得られる。
	おせっかいじゃない形でサポートがもらえる。
	④ 自分の好きとか要望を聞いてもらえ、見つけられる機会があること。
	この4つの要素が単独でも組み合わせでも良い。時期や状況により、上下することもある。この意見がビジョンに見えると良いのではないかと。ワーディングは事務局にお願いする。
	本日の意見を高校生世代チームに聞いてもらい、ピンと来る来ない、あてはまらない意見が出てくるかもしれない。そのうえで、考えていこう。
	資料6にあるように、ビジョンごとに具体的にできること、何が大きかを高校生世代と一緒に検討しつつ、優先順位を設け、今できること、これからやることなどの項目の整理をしていく。
	特に、非交流の居場所をどう作るかということと、中高生プラザの利活用を促進する課題をもとにビジョンを深めていく。
	今日出た意見を事務局にまとめていただき、高校生世代と合同の第3回で検討しよう。他にご意見はないか。

委員長	(「なし」という者あり) 何かあれば、事務局までメールで連絡をお願いします。
事務局	4 事務局からの連絡事項 ① 第3回検討委員会は、7月25日(木)18時開始 参集とオンラインのハイブリットで開催。本日いただいた意見を踏まえ、あらためて高校生の意見を聞き、ビジョンを決定する。 ② ユースセンター3の視察の実施 7月25日以降8月上旬の水曜日と土曜日の午前中で日程調整を行う。 高校生の日程を優先する。 ③ 第4回検討委員会は、高校生世代が8月上旬。有識者が8月下旬から9月で日程調整を行う。
委員長 ファシリテーター	ファシリテーターから、感想をお願いしたい。 高校生世代の意見がどのように反映されるか気にしながら聞いていた。好きなことや必要なことができる場所だけでなく、必要なものが揃う場所という考えが話に上がってよかった。加えて、様々な価値観や属性の人が尊重される、そういった人が守られ、いられる場所という考えについても次回議論が出来る と良いと感じた。
委員長	これで、本日の検討委員会を終了する。遅くまで大変活発な議論をしていただき感謝する。 ＜閉会＞